

各 位

三重県病害虫防除所長

令和7年度病害虫発生予報第4号

このことについて、下記のとおり発表します。

1. 向こう1か月の予報と対策

1) 作物

イネでは、斑点米カメムシ類の発生量は**多**と予想されます。出穂期以降の防除を徹底してください。紋枯病の発生量は**やや多**と予想されます。いもち病との同時防除を行ってください。セジロウンカ、トビイロウンカの発生量は**少**と予想されますが、普通期栽培では発生に注意してください。白葉枯病、ツマグロヨコバイは**平年並**の発生量、穂いもちの発生量は**やや少**、イネクロカメムシの発生量は**少**と予想されます。

ダイズでは、吸実性カメムシ類の発生量は**多**と予想されます。開花期以降の薬剤散布を徹底してください。ハスモンヨトウの発生量は**多**と予想されます。今後の発生状況に注意して防除してください。紫斑病の発生量は**やや多**と予想されます。開花期以降の防除を行ってください。コガネムシ類の発生量は**やや多**と予想されます。

2) 果樹

カンキツでは、ミカンハダニの発生量は**やや多**と予想されます。高温により活動が停滞する時期ですが、ほ場での発生状況をよく確認し、多発している場合は防除してください。チャノキイロアザミウマの発生量は**やや多**と予想されます。寄生果率が10%になった時を目安に防除を実施してください。黒点病、かいよう病

目 次

	ページ
1. 向こう1か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	7
4. 予察項目の見方	13
5. 気象のデータ	14
6. おしらせ	16

(温州、中晩柑)の発生量は**平年並**と予想されます。

果樹共通の病害虫では、カメムシ類の発生量は**やや少**と予想されます。

3) 茶

チャでは、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマの発生量は**やや多**と予想されます。発生状況に応じて、新芽の萌芽から開葉初期に防除してください。炭疽病、カンザワハダニ、チャノコカクモンハマキの発生量は**やや少**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、炭疽病の発生量は**やや多**と予想されます。発病株は感染源となるため、周辺株も含めて速やかに除去し、ほ場外に持ち出して適切に処分してください。

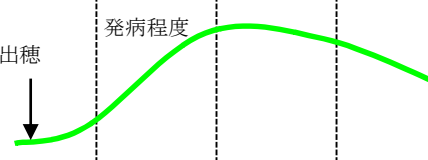
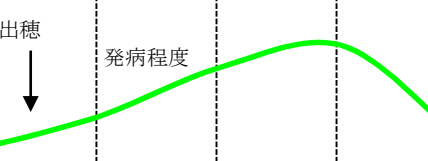
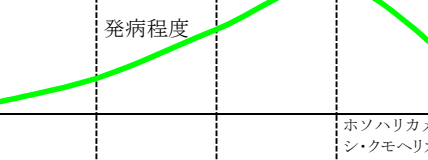
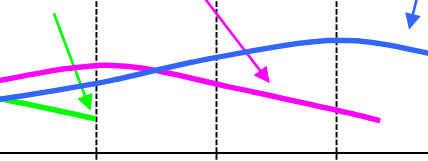
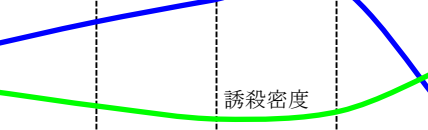
〒515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

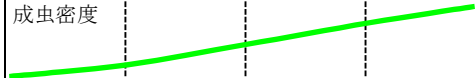
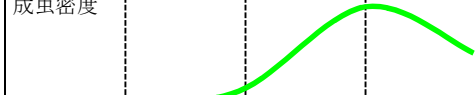
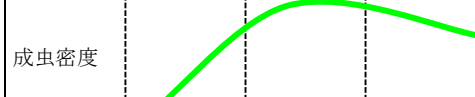
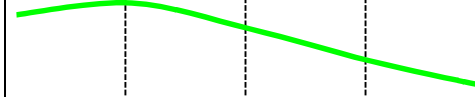
TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

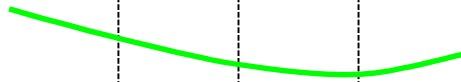
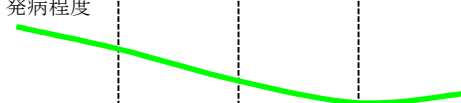
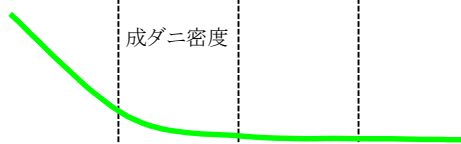
ホームページ <http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm>

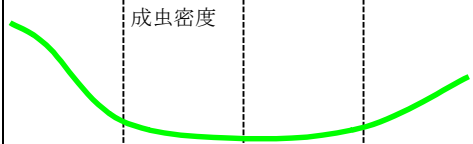
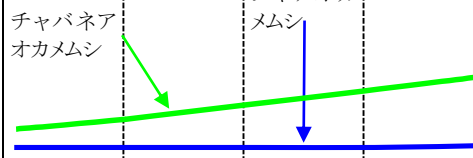
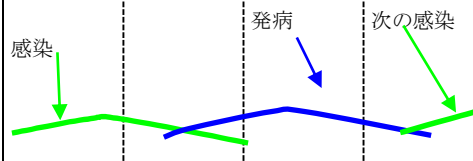
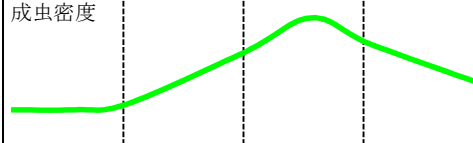
農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

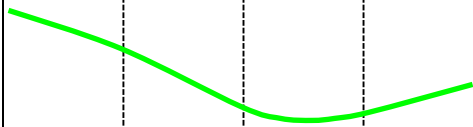
2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除 ほ場率	発生病消長の一例				防除の注意事項
						7月	8月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	穂いもち	—	やや少	中	普通		発病程度			1) 葉いもちが上位葉で発生しているほ場では、感染の恐れがあります。発生状況に注意してください。 2) これから出穂期となるほ場において、薬剤散布する場合は、出穂始めから穂揃い期に実施してください。 3) 特に作期の遅いほ場や、いもち病に弱い品種は、適期防除を徹底してください。
	紋枯病	—	やや多	大	普通		発病程度			1) 高温多湿条件で発病が助長されます。 2) 多肥、過繁茂のほ場では発生しやすくなります。 3) 薬剤散布は出穂 7 から 10 日前に実施してください。
	白葉枯病	—	平年並	小	低		発病程度			1) 常発地では、台風や集中豪雨の直後に薬剤散布してください。 2) 「みえのゆめ BSL」は耐病性の弱い品種なので注意が必要です。
	斑点米カメムシ類	—	多	大	高					1) 病害虫発生予察注意報第 2 号(令和 7 年 7 月 11 日発表)を参考にしてください。 2) 本田防除の薬剤散布は、出穂直後とその 10 日後に実施してください。 3) 広域での一斉防除が効果的です。 4) 周囲よりも出穂の早い水田および遅い水田では、被害が集中するので防除を徹底してください。
	イネクロカメムシ	—	少	小	低					1) 発生ほ場では、今後出すくみ穂や白穂被害が目立つようになります。 2) 常発地で薬剤散布する場合は、株元までかかるように行ってください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除ほ場率	発消長の一例				防除の注意事項	
						7月	8月				
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬		
イネ	ツマグロヨコバイ	—	平年並	大	低	成虫密度					1) 9月上旬までに収穫するほ場では、実害はほとんどありません。
	セジロウンカ	—	少	小	低	成虫密度					1) 株元を注意して観察しましょう。葉鞘が黄変したり、成虫や幼虫が多発している場合は、被害が発生する可能性があるため、早急に防除してください。
	トビイロウンカ	—	少	小	低	成虫密度					1) 株元を注意して観察しましょう。葉鞘が黄変したり、成虫や幼虫が多発している場合は、被害が発生する可能性があるため、早急に防除してください。
ダイズ	紫斑病	—	やや多	小	普通			発病程度		1)これから播種するほ場では、種子消毒を徹底してください。 2) 莢が形成され始めたら、薬剤散布をしてください。	
	コガネムシ類	—	やや多	中	普通	成虫密度					1) 通常は防除の必要はありませんが、多発する場合は加害初期に防除してください。 2) ヒメコガネとドウガネブイブイは夜行性の種のため、夕方に薬剤散布すると効果的です。
	ハスモンヨトウ	—	多	大	高			被害量		1)白変葉を目印として早期発見に努め、若齢幼虫期に防除してください。 2) 発生量が急増することがありますので、防除所ホームページにおいて、フェロモントラップでの誘殺状況に注意してください。	

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除 ほ場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						7 月	8 月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
ダイズ	吸実性カメムシ類	—	多	大	高				開花 ↓ 	1) 近年、ミナミアオカメムシによる被害粒の多発や、青立ち症状が増加しています。 2) 薬剤散布は、9 月中旬(開花 20 日後・莢伸長期)と 10 月上旬(開花 40 日後・子実肥大中期)の 2 回散布が効果的です。 3) 遅くとも、9 月下旬(開花 30 日後・子実肥大初期)までに 1 回目の薬剤散布をしてください。 4) 移動性が高いため、広域一斉防除が効果的です。 5) エチプロール剤およびジノテフラン剤は、ミナミアオカメムシの殺虫効果が高いことが確認されています。
	黒点病	—	平年並	小	普通	発病程度 				1) 薬剤散布を定期的 to 実施し、8 月下旬まで感染防止に努めてください。 2) 枯枝は感染源となるので、切除に努めてください。 3) 薬剤散布後、積算で 200mm 以上の降雨があれば 2 回目の防除を実施してください。
	かいよう病	—	温州 平年並 中晩柑 平年並	温州 小 中晩柑 中	温州 低 中晩柑 普通	発病程度 				1) 果実・夏枝に病斑が見られるほ場では、発病した枝・葉・果実を除去し、薬剤防除を行ってください。 2) 防風対策に努め、台風の接近が予想される場合には、直前に防除してください。 3) 高接樹や幼木については、ミカンハモグリガの防除も徹底してください。
カンキツ	ミカンハダニ	—	やや多	中	普通	成ダニ密度 				1) 1 葉当りの雌成虫寄生数が 0.5 から 1.0 頭程度を目安に防除してください。 2) 高温により活動が停滞する時期ですが、ほ場での発生状況をよく確認し、多発している場合は防除してください。 3) 薬剤散布は葉裏にかかるよう、丁寧に散布してください。 4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤は連用せず、RAC コードの異なる薬剤でローテーション散布を行ってください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除ほ場率	発生消長の一例				防除の注意事項	
						7 月	8 月				
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬		
カンキツ	チャノキイロアザミウマ	—	やや多	中	普通		成虫密度				1) 寄生果率 10%になった時を目安に防除を実施してください。 2) 7 月以降は寄生部位が果頂部に移ります。
果樹共通	カメムシ類	—	やや少	小	低		チャバネア オカメムシ	ツヤアオカ メムシ			1) ほ場内を観察し、飛来が認められたら防除を実施してください。 2) ほ場(特にナシ、カキ)によっては局所的に飛来してきます。過去に発生が多かったほ場周辺では注意してください。 3) ナシ、ブドウの有袋栽培では、袋と果実が密着すると袋の上から加害されることがあります。
チャ	炭疽病	—	やや少	小	普通		感染	発病	次の感染		1) 感染源は旧葉、感染するのは新芽の上位葉で、新芽生育期に降雨が続くと発生が多くなります。 2) 防除時期は 1 から2葉展開期です。 3) 整枝による病斑葉の刈り落としも防除効果があります。ただし、葉層の確保充実も考慮してください。 4) 薬剤耐性菌が出現しやすいため同一系統の薬剤の連用は避けてください。
	カンザワハダニ	—	やや少	小	普通		成ダニ密度				1) 発生が少なければ防除の必要はありません。 2) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、同一系統の薬剤の連用は避けてください。
	チャノミドリヒメヨコバイ	—	やや多	中	普通		成虫密度				1) 新芽の先が褐変し、ひどいときは芽が硬化し発育が停止します。 2) 晴天が続くと発生が多くなります。 3) 新芽の萌芽から開葉初期に防除してください。 4) 一斉防除が効果的です。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除ほ場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						7月	8月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	チャノキイロアザミウマ	—	やや多	中	普通					1) 萌芽期に加害されると芽の成長が止まり、褐変枯死する場合があります。 2) 晴天が続くと発生が多くなります。 3) 新芽の萌芽から開葉初期に防除してください。 4) 一斉防除が効果的です。
	チャノコカクモンハマキ	—	やや少	小	低					1) 若齢幼虫期に防除してください。防除適期は成虫発生ピークの7日から10日後頃です。 2) 三重県農業研究所(茶業研究課)ホームページにて発生状況を掲載していますので参考にしてください。
イチゴ	炭疽病	—	やや多	中	普通					1) 発病株は感染源となるため、周辺株も含めて速やかに除去し、ほ場外に持ち出して適切に処分してください。 2) 薬剤による予防防除を徹底してください。降雨、台風等の前後は特に重点的に防除してください。 3) 耐性菌が出現しやすいため同一系統薬剤の連用は避けてください。 4) 病原菌を含む水滴の跳ね返りによって感染が拡大します。水滴が跳ね返らないよう、丁寧に灌水を行ってください。

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	穂いもち	—	やや少	要因 1) 1 か月予報(7 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (—) 2) 巡回調査ほ場(7 月第 1 から 2 週)では、葉いもちの発生ほ場率 13.2%(平年 11.2%)とやや多、発病度 0.41(平年 0.75)と少 (—) 3) 一般ほ場では、葉いもちの発生量は無から少 (—) 考察:葉いもちの発生量はやや少と考えられ、穂いもちの予想発生量はやや少とえます。
	紋枯病	—	やや多	要因 1) 1 か月予報(7 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (+) 2) 昨年 8 月の巡回調査結果から、ほ場残存菌核数はやや多と予想 (+) 3) 巡回調査ほ場(7 月第 1 から 2 週)では、発生ほ場率 0%(平年 1.4%)と少、発病株率 0%(平年 0.13%)と少 (—) 4) 一般ほ場では、発生量は無から少(概して無) (—) 考察:前年の発生状況及び、気象条件を考慮して、予想発生量はやや多とえます。
	白葉枯病	—	平年並	要因 1) 巡回調査ほ場(7 月第 1 から 2 週)では、発生ほ場率 0%(平年 0%)と平年並に少 (±) 2) 一般ほ場では、発生量は無 (—) 考察:現状の発生量は平年並に少と考えられ、予想発生量は平年並とえます。
	斑点米カメムシ類	—	多	要因 1) 1 か月予報(7 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (+) 2) 予察灯での誘殺数は、水田・松阪市(4 月第 1 半旬から 7 月第 2 半旬)ではイネカメムシ 52 頭(平年 21.0 頭)、ミナミアオカメムシ 76 頭(平年 28.1 頭)、アカスジカスミカメ 647 頭(平年 77.5 頭)といずれ也多 (+) 3) 巡回調査ほ場(7 月第 1 から 2 週)では、すくい取りによる発生地点率はホソハリカメムシ 33.6%(平年 13.2%)、クモヘリカメムシ 15.2%(平年 8.5%)、シラホシカメムシ類 22.4%(平年 7.0%)、アカスジカスミカメ 36.0%(平年 26.9%)、アカヒゲホソミドリカスミカメ 15.2%(平年 9.5%)といずれ也多。すくい取り成虫数は、ホソハリカメムシ 0.87 頭(平年 0.25 頭)、シラホシカメムシ類 0.40 頭(平年 0.09 頭)、アカスジカスミカメ 4.58 頭(平年 1.88 頭)、アカヒゲホソミドリカスミカメ 0.66 頭(平年 0.25 頭)といずれ也多、クモヘリカメムシ 0.70 頭(平年 0.50 頭)とやや多 (+) 4) 一般ほ場では、発生量は平年並から多(概してやや多) (+) 考察:現状の発生量は多と考えられ、引き続き予想発生量は多とえます。

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネクロカメムシ	—	少	要因 1) 予察灯(4月第1半旬から7月第2半旬)では、誘殺数は、水田・松阪市6頭(平年10.2頭)と少、畑・松阪市369頭(平年101.3頭)と多(±) 2) 巡回調査ほ場(7月第1から2週)では、発生ほ場率7.5%(平年8.8%)とやや少、被害株率0.30%(平年0.56%)と少(—) 3) 一般ほ場では、発生量は無から少(概して少)(—) 考察: 一般ほ場の発生状況から現在の発生量は少と考えられ、引き続き予想発生量は少と考えます。
	ツマグロヨコバイ	—	平年並	要因 1) 予察灯(6月第1半旬から7月第1半旬)での誘殺数は、伊賀市13頭(平年5.6頭)、紀北町11頭(平年5.8頭)、御浜町10頭(平年6.5頭)といずれも多、畑・松阪市63頭(平年552頭)と少(+) 2) 巡回調査ほ場(7月第1から2週)では、発生ほ場率7.1%(平年21.5%)、払い落とし成幼虫数0.12頭(平年0.70頭)といずれも少(—) 3) 一般ほ場では、発生量は少(—) 考察: 予察灯、巡回調査の結果から現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。
	セジロウンカ	—	少	要因 1) 予察灯(6月第1半旬から7月第1半旬)での誘殺数は、水田・松阪市0頭(平年2.5頭)、畑・松阪市0頭(平年6.9頭)、伊賀市0頭(平年4.3頭)、紀北町0頭(平年0.6頭)、御浜町0頭(平年7.1頭)といずれも少(—) 2) 巡回調査ほ場(7月第1から2週)の払い落とし調査では、発生ほ場率0%(平年1.8%)と少(—) 考察: 現状の発生量は少と考えられ、引き続き予想発生量は少と考えます。
	トビイロウンカ	—	少	要因 1) 予察灯予察灯(6月第1半旬から7月第1半旬)では、畑・松阪市0頭(平年1.6頭)、伊賀市0頭(平年0.3頭)、紀北町0頭(平年0.4頭)、御浜町0頭(平年0.6頭)といずれも少(—) 考察: 現状の発生量は少と考えられ、引き続き予想発生量は少と考えます。
ダイズ	紫斑病	—	やや多	要因 1) 1か月予報(7月17日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想(±) 2) 昨年の巡回調査ほ場では、紫斑粒の発生率1.0%(平年0.1%)と多(+) 考察: 昨年の紫斑粒発生状況及び、今後の気象条件を考慮し、予想発生量はやや多と考えます。

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ダイズ	コガネムシ類	—	やや多	要因 1) 1 か月予報(7 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (＋) 2) 予察灯(畑・松阪市、4 月第 1 半旬から 7 月第 2 半旬)では、誘殺数はドウガネブイブイ 190 頭(平年 158.4 頭)、アオドウガネ 489 頭(平年 381.3 頭)といずれ也多、ヒメコガネ 26 頭(平年 41.2 頭)と少 (＋) 3) 県予察ほフェロモントラップ(松阪市、5 月上旬から 7 月中旬)では、誘殺数はマメコガネ 54 頭(平年 32.1 頭)、ヒメコガネ 12 頭(平年 4.4 頭)といずれ也多、ドウガネブイブイ 35 頭(平年 43.8 頭)とやや少 (＋) 考察:現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。
	ハスモンヨトウ	—	多	要因 1) 1 か月予報(7 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (＋) 2) 県予察ほフェロモントラップ(松阪市、6 月第 4 半旬から 7 月第 3 半旬)では、誘殺数は 702 頭(平年 468.5 頭)と多 (＋) 考察:現状の発生量は多と考えられ、引き続き予想発生量は多と考えます。
	吸実性カメムシ類	—	多	要因 1) 1 か月予報(7 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (＋) 2) 予察灯(畑・松阪市、6 月第 4 半旬から 7 月第 2 半旬)では、誘殺数は、ミナミアオカメムシ 1,269 頭(平年 225.7 頭)、イチモンジカメムシ 174 頭(平年 42.5 頭)、ホソヘリカメムシ 27 頭(平年 4.4 頭)といずれ也多 (＋) 考察:現状の発生量は多と考えられ、今後の気象条件を考慮して、予想発生量は多と考えます。
カンキツ	黒点病	—	平年並	要因 1) 1 か月予報(7 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (±) 2) 県予察ほ(御浜町、7 月上旬、興津早生、無防除)では、果実発病度 32.9(平年 36.0)とやや少 (－) 3) 巡回調査ほ場(6 月第 5 週から 7 月第 2 週)では、果実発病度 0(平年 0.27)と少 (－) 4) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±) 考察:現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	かいよう病	—	温州 平年並 中晩柑 平年並	要因 1) 1 か月予報(7 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (—) 2) 県予察ほ(御浜町、7 月上旬、新甘夏、無防除)では、発病葉率 0.7%(平年 4.2%)と少、発病果率 0.83%(平年 3.7%)と少 (—) 3) 巡回調査ほ場(6 月第 5 週から 7 月第 2 週)では、温州みかんは発病葉率 0%(平年 0.09%)と少、発病果率 0%(平年 0%)と平年並、中晩柑は発病葉率 0.7%(平年 4.7%)と少、発病果率 0%(平年 0.5%)と平年並 (—) 4) 一般ほ場では、発生量はやや少から平年並(概して平年並) (±) 考察:現状の発生量は温州みかん、中晩柑ともに平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。
	ミカンハダニ	—	やや多	要因 1) 1 か月予報(7 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (—) 2) 県予察ほ(御浜町、7 月上旬、興津早生)では、100 葉当り寄生頭数は、無防除区で 20.0 頭(平年 9.2 頭)と多、慣行防除区で 10 頭(平年 1.7 頭)と多 (+) 3) 巡回調査ほ場(6 月第 5 週から 7 月第 2 週)では、新葉における寄生葉率 0.62%(平年 5.0%)と少、寄生頭数 0.01 頭/葉(平年 0.24 頭/葉)と少(—) 4) 一般ほ場では、やや少からやや多(概してやや多) (+) 考察:現状の発生量は一般ほ場を重視してやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。
	チャノキイロアザミウマ	—	やや多	要因 1) 1 か月予報(7 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (+) 2) 県予察ほ黄色粘着トラップ(御浜町、7 月上旬、ネーブル、無防除)では、誘殺数 3.5 頭/日(平年 2.9 頭/日)と平年並(±) 3) 県予察ほ(御浜町、7 月中旬、ネーブル、無防除)では、100 果当り寄生虫数 0 頭(平年 2.8 頭)と少 (—) 4) 巡回調査ほ場(6 月第 5 週から 7 月第 2 週)では、被害果率 0%(平年 0.6%)と平年並の傾向 (±) 5) 一般ほ場では、発生量はやや少から平年並(概して平年並) (±) 考察:現状の発生量は平年並と考えられ、今後の気象条件から予想発生量はやや多と考えます。

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
果樹共通	カメムシ類	—	やや少	要因 1) 予察灯(御浜町、7月上旬)では、誘殺数は、チャバネアオカメムシ 3 頭(平年 4,855 頭)、ツヤアオカメムシ 0 頭(平年 31 頭)といずれも少 (—) 2) 予察灯(畑・松阪市、6 月第 3 半句から 7 月第 2 半句)では、誘殺数は、チャバネアオカメムシ 38 頭(平年 973 頭)、ツヤアオカメムシ 38 頭(平年 973 頭)、クサギカメムシ 10 頭(平年 110 頭)といずれも少 (—) 3) フェロモントラップ(御浜町、7月上旬)では、誘殺数は、チャバネアオカメムシ 0 頭(平年 546 頭)と少 (—) 4) フェロモントラップ(6 月第 2 週から 7 月第 1 週)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地(津市白山町川口)で 522 頭(平年 1,375 頭)、中間地(津市白山町二本木)で 411 頭(平年 1,599 頭)、平坦地(松阪市嬉野川北町)で 6 頭(平年 283 頭)といずれも少 (—) 5) 巡回調査ほ場(6 月第 5 週から 7 月第 2 週)では、カンキツほ場での叩き落とし虫数 0 頭(平年 0.008 頭)とやや少 (—) 6) 一般ほ場では、発生量は少 (—) 考察:現状の発生量は少と考えられますが、予想発生量はやや少と考えます。
	炭疽病	—	やや少	要因 1) 1 か月予報(7 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (±) 2) 巡回調査ほ場(6 月第 5 週から 7 月第 1 週)では、発病葉数 1.6 枚/㎡(平年 0.4 枚/㎡)と多 (+) 3) 一般ほ場では、発生量は少 (—) 考察:現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。
	カンザワハダニ	—	やや少	要因 1) 1 か月予報(7 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (—) 2) 県予察ほ(亀山市、6 月中旬から 7 月上旬)では、寄生葉率 4.0%(平年 4.4%)と平年並、寄生頭数 0.04 頭/葉(平年 0.1 頭/葉)と少 (—) 3) 巡回調査ほ場(6 月第 5 週から 7 月第 1 週)では、寄生葉率 0.2%(平年 1.6%)と少、寄生頭数 0.002 頭/葉(平年 0.08 頭/葉)と少、発生ほ場率 9%(平年 28%)と少 (—) 4) 一般ほ場では、発生量はやや少 (—) 考察:現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。
チャ	チャノミドリヒメコバエ	—	やや多	要因 1) 1 か月予報(7 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (+) 2) 県予察ほ黄色粘着トラップ(亀山市、6 月第 3 半句から 7 月第 2 半句)では、捕殺数 142.9 頭(平年 95.9 頭)と多 (+) 3) 巡回調査ほ場(6 月第 5 週から 7 月第 1 週)では、叩き落とし虫数 6.72 頭(平年 2.0 頭)と多 (+) 4) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±) 考察:現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノキイロアザミウマ	—	やや多	要因 1) 1 か月予報(7 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (＋) 2) 県予察は黄色粘着トラップ(亀山市、6 月第 3 半旬から 7 月第 2 半旬)では、捕殺数 902 頭(平年 909 頭)と平年並 (±) 3) 巡回調査ほ場(6 月第 5 週から 7 月第 1 週)では、叩き落とし虫数 4.3 頭(平年 2.2 頭)と多 (＋) 4) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±) 考察:現状の発生量は平年並と考えられますが、今後の気象条件を考慮して予想発生量はやや多と考えます。
	チャノコカクモンハマキ	—	やや少	要因 1) 1 か月予報(7 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (＋) 2) 県予察はフェロモントラップ(亀山市、6 月第 3 半旬から 7 月第 2 半旬)では、誘殺数 888 頭(平年 1,458 頭)と少 (－) 3) 巡回調査ほ場(6 月第 5 週から 7 月第 1 週)では、ハマキムシ類巻葉数 1.1 枚／㎡(平年 1.0 枚／㎡)と平年並 (±) 4) 一般ほ場では、ハマキムシ類の発生量は少 (－) 考察:現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。
イチゴ	炭疽病	—	やや多	要因 1) 1 か月予報(7 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (＋) 2) 巡回調査ほ場(6 月第 5 週から 7 月第 2 週)では、発病株率 0.2%(平年 0.1%)とやや多 (＋) 3) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±) 考察:現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。

4. 予察項目の見方

1)「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比)： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の 5 段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6	
評価	早	やや早		平年並				やや遅				遅		

発生量(平年比)： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の 5 段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

	平年値 ↓					
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量(程度)： 発生程度を「小、中、大、甚」の 4 段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい」が平年並の発生

量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除は場率(平年比)： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の 3 段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半のほ場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう 1 か月の予報ですが、その前後を合わせて 40 日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう 1 か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2)「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

- (±)：平年並の要因
- (+)：発生量増加または発生時期遅延の要因
- (-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 気象のデータ

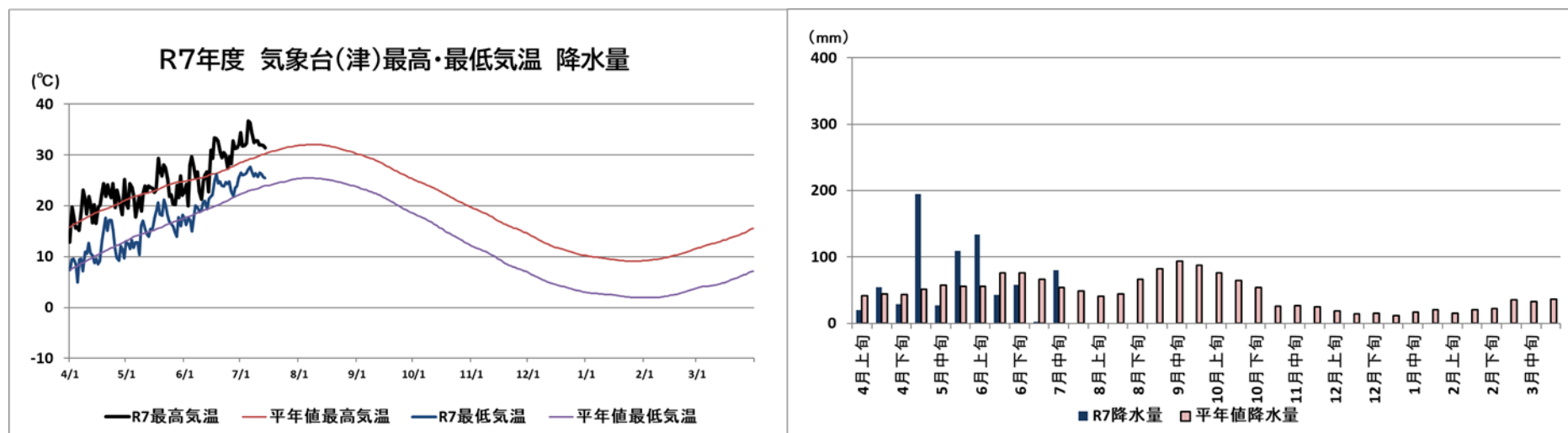
東海地方 1 か月予報 (2025 年 7 月 17 日 名古屋地方気象台発表)

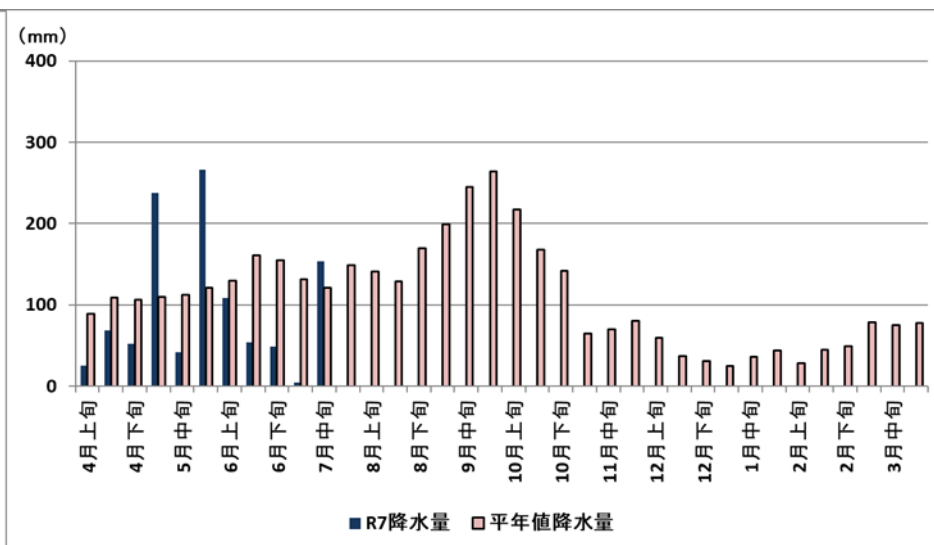
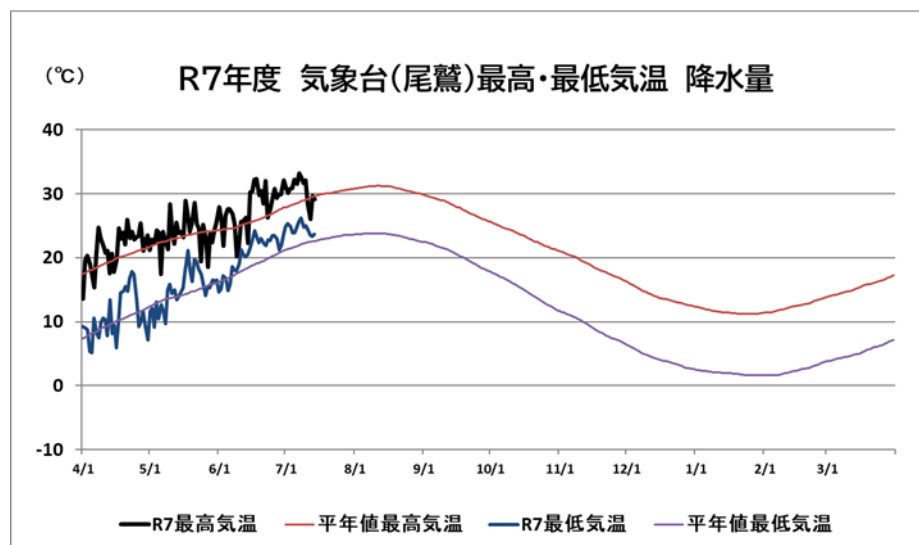
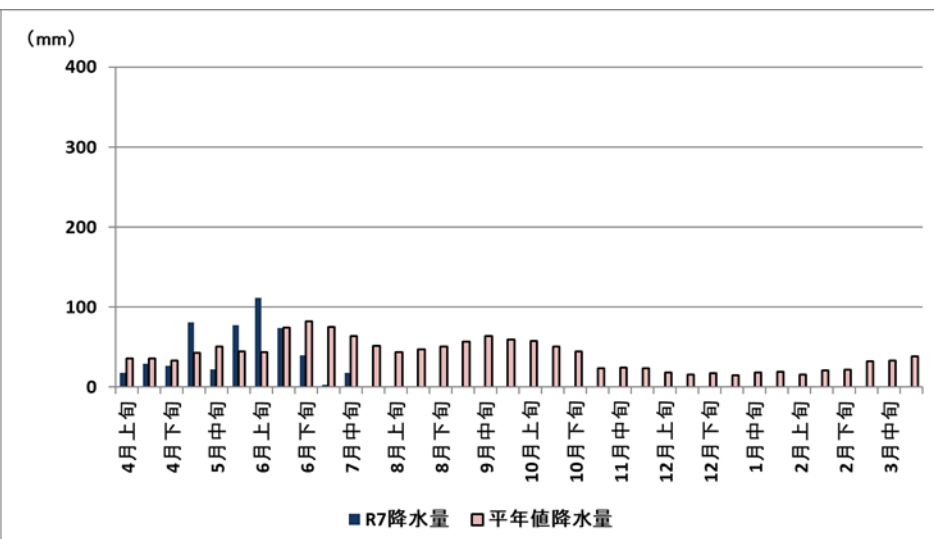
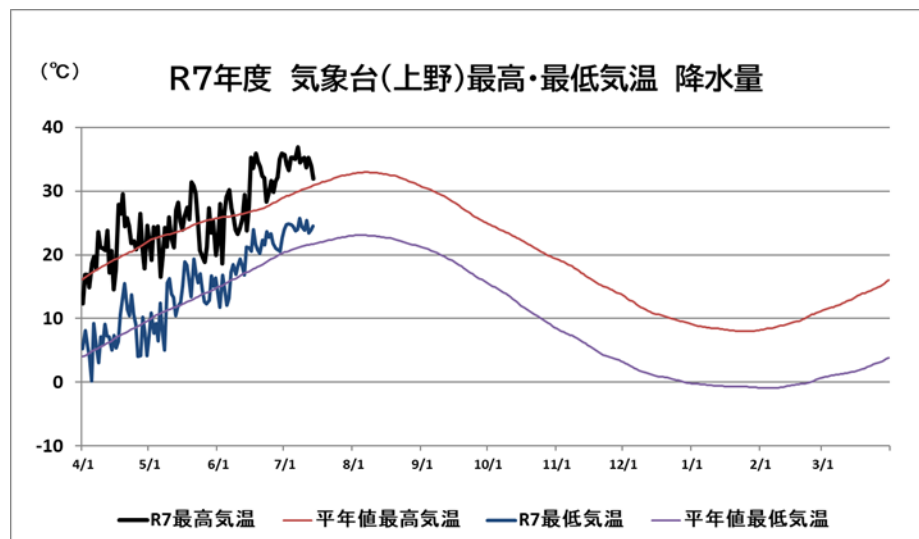
向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高いでしょう。期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。

太平洋高気圧に覆われやすい時期があるため、向こう1か月の日照時間は多く、降水量は平年並か少ないでしょう。

1 週目 7 月 19 日から 7 月 25 日	太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
2 週目 7 月 26 日から 8 月 1 日	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
3 から 4 週目 8 月 2 日から 8 月 15 日	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気象の日別推移(気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (7 月 14 日まで)





6. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回	4月24日(木)(済み)	第2回	5月22日(木)(済み)
第3回	6月19日(木)(済み)	第4回	7月23日(水)(今回)
第5回	8月21日(木)	第6回	10月17日(金)
第7回	3月19日(木)		

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。

下記のアドレスからお入りください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001134365.pdf>

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたことを「掲載通知」として電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39475007379.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

三重県農薬情報システム

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/mie>

農林水産省の「農薬登録情報提供システム」

<https://pesticide.maff.go.jp/>

7) IPM(総合的病害虫・雑草管理)実践指標について

三重県では IPM を実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。農産物安全・流通課ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産物安全・流通課ホームページ内

<https://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/80301022763.htm>